



現場から（最近のニュースから）

豚まん論争



新幹線の中で豚まんを食べる人に対して、「良くない」「それくらい良いではないか」という論争が繰り返されているのをご存じでしょうか。豚まんやシューマイのニオイに対し、世論は「否定派」と「肯定派」に完全に二分され、決して交わることのない論争を繰り返しています。お互いに絶対に譲れない状態が続いているのですが、それに対して、神経内科専門医の藤岡祐介氏が、神経内科医として人間の脳と知覚のメカニズムに向き合ってきた経験から「対立の根底に『とんでもない誤解』が存在しているのではないか」という仮説に思い及び、それについて書いている記事がありました。

藤岡氏によると、「同じ空間で同じ物のニオイを嗅いでいるのだから、隣の人も自分と同じように『そのニオイ』を感じているはずだ」という誤解があるということです。ニオイの感受性には遺伝子多型が深くかかわっていることが広く知られていそうですが、豚まんのニオイについて探っている中で、医学論文からひとつの論が出てきたそうです。豚肉の脂肪分には「アンドロステノン」というステロイド系の揮発性成分が含まれることが知られていて、これはいわゆる「獣臭」の要因のひとつとなるということです。人がその成分をどのように知覚するかは、嗅覚受容体遺伝子の型と強く関連している可能性があり、その受容体が（RT型）である群は、アンドロステノンに対して高い感受性を示し、不快な獣臭として感知しやすい傾向があるそうです。そのように不快な獣臭として感知するのは、昔に外敵の存在を示す「危険アラート」として作用していたかららしいということです。ですから、そのニオイを不快な獣臭として感知する人々は、そのニオイが脳内で「危険アラート」として処理されている可能性があるということです。この受容体遺伝子に変異（WM型）を持つ群は、アンドロステノンに対して不快さを感じにくく、むしろより好意的に知覚する傾向が報告されているそうです。それゆえ、獣臭の不快な成分を「温かい小麦粉と肉汁の良い香り」として受け取れることができるということです。同じ豚まんを前にして、片や情動系を刺激する獣臭に苦しみ、片や美味しい豚まんの甘い香りを楽しむので、すれ違いが生じるのではないかとということです。ただ、豚まんを新幹線内で食べる論争の要因がこれだけではないとは言われていて、ほかにもさまざまな要因があるということです。相互理解をするために、「我々はそもそも違うニオイを感じている」と知ることが助けになるのではないかと、記事では言われています。（3月28日ダイヤモンド・オンライン〈新幹線で豚まん〉論争が終わらないワケ…神経内科医が科学的に解き明かした「断絶」の正体〉より）

ニオイひとつにも遺伝子的なレベルでの根本があって、人それぞれ違うように感じているということです。豚まんだけのことでなく、人間関係で相手を理解するために、「相手は自分と同じではない」ことは知っておくのが良いかもしれません。人は自分の世界がすべてだと考えやすいので、自分が基準になって考えていることが多いです。どれほど相手の身になって考えようとしても、自分の基準から出るとは難しいです。それゆえ、多くの場合、衝突や紛争が起こります。自分が基準になっている場合、間違っていることも気づきにくいですが、しかし、人は自分を基準にするしかない存在です。なぜ、自分を基準にして考えることしかできないのでしょうか。また、正確な基準になる、なにかほかの基準はあるのでしょうか。あなたが自分でそれを考え出すことは難しいでしょう。一度、いっしょに、その正確な基準について見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故に会い、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になるし、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」